

普及活動情勢報告（平成31年1月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

ミョウガ栽培における収量制限要因と増収のためのポイント ～ミョウガ勉強会を開催～



勉強会の様子

12月26日、JA土佐くろしおミョウガ部会を対象に勉強会を開催し、農家など55名が参加しました。環境測定やアメダスデータから今年の収量が少なかった原因や対策、測定装置導入の重要性とその見方、活用方法について情報提供を行ないました。

特に、厳寒期から春にかけての温湿度管理が環境面での収量制限要因の一つで、大きなポイントであることが理解されたようです。

ミョウガの栽培技術については、依然と解らないことが多いですが、今後も農業改良普及課は定期的に勉強会を開催し、栽培技術のレベルアップに取り組みます。

津野山地域の園芸産地の維持・発展のために！～今後の農業経営に関するアンケートを実施～



アンケートについての説明

津野山地域の園芸産地の維持・発展のために、これまで、関係機関と新たな担い手の確保・育成に関する協議を重ねてきました。その中でも特に、研修後の農地・ハウス等の貸借等についての体制整備が必要であるため、12月26日に開催したJA津野山園芸部出荷反省会場の場を活用し、参加した園芸部員35名に対して今後の農業経営に関するアンケートを実施しました。

アンケートでは、今後、農業をやめる際には農地等を貸してもよいといった回答も見受けられました。

今後、農業改良普及課は、このアンケート結果をもとに、関係機関と農家への個別聞き取りを実施し、津野山地域における「農地・ハウス台帳」を整備していく計画です。

津野山版基礎GAPからガイドライン準拠版GAPへの移行 ～GAP勉強会～



勉強会の様子

12月26日、JA津野山営農センター輝で津野山園芸部出荷反省会が行われ、35名の生産者が出席しました。

農業改良普及課は、会の中で基礎GAPからガイドライン準拠版GAPへの移行についての説明を行いました。当地はISO14001に取り組んでいた環境保全型農業の意識が高い地域です。今後はそれに加えて労働安全も加えたガイドライン準拠版にしていこうとよびかけ、異議無く承認されました。

農業改良普及課としては、1月以降、品目ごとに点検項目を精査したシートを作成し、ガイドライン準拠版GAPの実施を支援していきます。

収量、品質アップを目指して！ ～J A土佐くろしおニラ部会先進事例研修～



研修会の様子

1月11日、J A土佐くろしおニラ部会は、14人が参加し、四万十町栽培ほ場と農業担い手育成センターで先進事例について研修をしました。

栽培ほ場では、炭酸ガス施用や電照、細霧装置の活用など環境制御技術について学びました。また、農業担い手育成センターでは、薬剤散布時の注意点や実証試験の経過について説明をいただきました。部会員からは、低温時期のかん水や追肥のタイミング、温度管理、調整労力の確保等の質問が出され、今後の管理の参考になったとの感想が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携しながら、ニラの収量、品質アップを目指して取り組んでいきます。

土佐くろしお村とさっ子広場の売上アップを目指して！～魅力ある直販所づくりに向けての検討～



専門家による店内の状況確認

1月11日、土佐くろしお村とさっ子広場が、高知6次産業化サポートセンターの直販所支援アドバイザー派遣制度を活用し、店内の商品の陳列方法や見せ方等について専門家からのアドバイスを受けました。専門家からは「店舗入り口に旬の果物の箱売りコーナーを設置してはどうか」、「平面な陳列に台を置いて、ボリューム感を出す見せ方、売り方をしてはどうか」など多くのアドバイスを受け、実際に取り組む内容について検討をすることができました。

農業改良普及課は、今後も売上アップにつながる魅力ある直販所づくりへの支援を行っていきます。

中土佐町笹場地区の米の食味向上を目指して！ ～実証結果の検討～



打合せの様子

1月22日、中土佐町で米の食味向上を目指した取り組みの調査結果の検討を行いました。

中土佐町笹場地区では今年度から「にがり」を利用した米の食味改善への取り組みを行っており、農業改良普及課では収量及び品質等の調査を行いました。その結果、「にがり」を使用した試験区で食味改善効果の可能性があることがわかりました。

今回の調査結果に実証農家は興味を示しており、「にがり」利用による食味改善効果に加えて、土壌条件や肥培管理等も含めて総合的に検討していくこととしました。

農業改良普及課としては、引き続き食味向上への取り組みをバックアップしていきます。